

# 財務省ホームページ統計を活用する産業情報分析システム —XCAMPUS による実証デモ—

01203114 兵庫県立大学 経済学部 齋藤 清 SAITOH Kiyoshi

## 1. はじめに

財務省財務総合政策研究所編「法人企業統計季報」は、金融・保険業を除く資本金 1000 万円以上の法人企業の動向を知る上で重要な統計データである。平成 15 年 7 月に財務省は、行政手続きのオンライン化の一環として、法人企業統計の平成 15 年度調査からインターネットを活用したオンライン調査を導入した<sup>注1</sup>。この財務省のホームページ上の「法人企業統計季報」データを積極的に活用する産業情報分析システムを実演紹介する。

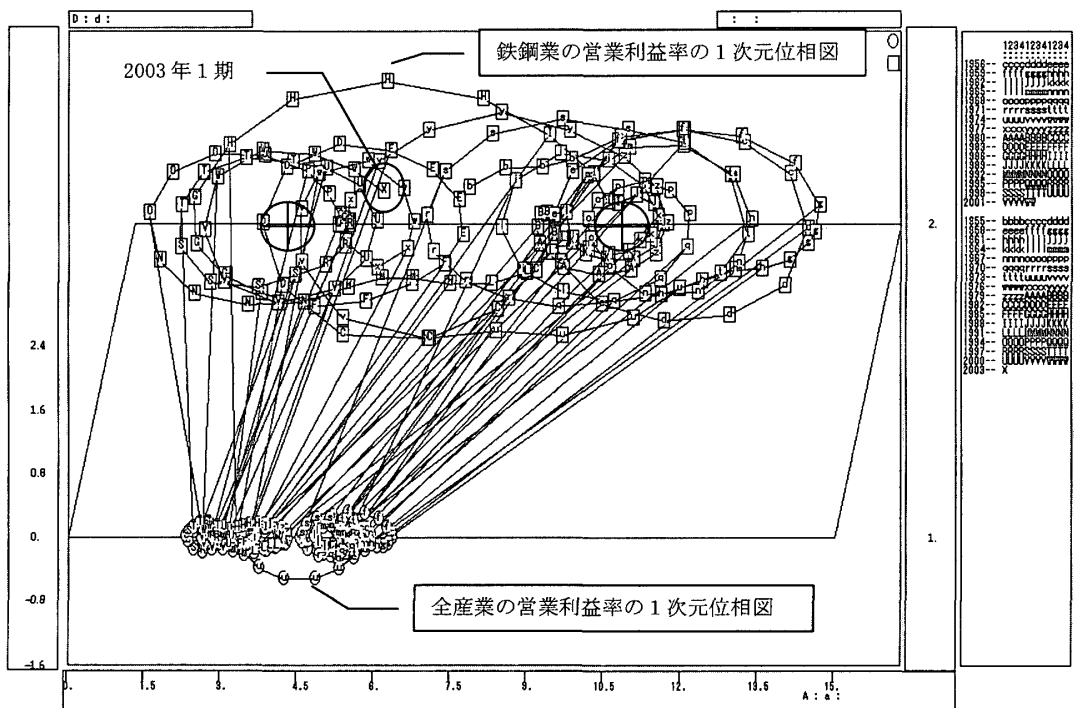
## 2. XCAMPUS

図の財務省ホームページの検索ページ<sup>注2</sup>からダウンロードしたデータを表計算ソフトで表示し、そのデータ部分を筆者が開発した経済経営データ解析システムXCAMPUS<sup>注3</sup>に転記して種々の産業情報分析を実践する。

### 3. 1次元位相図の業種間比較

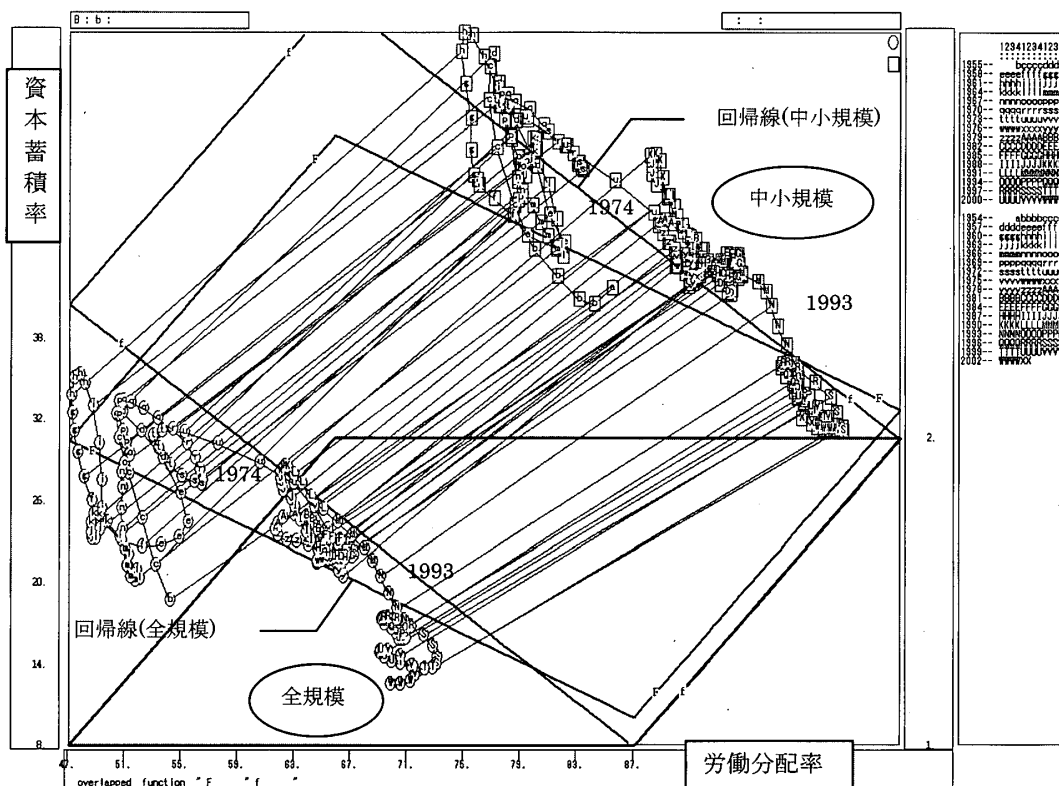
鉄鋼業と全産業の1次元位相図(Phase Diagram)を上下に配置する3次元図を描画している。

財務省ホームページの法人企業統計季報の検索ページ



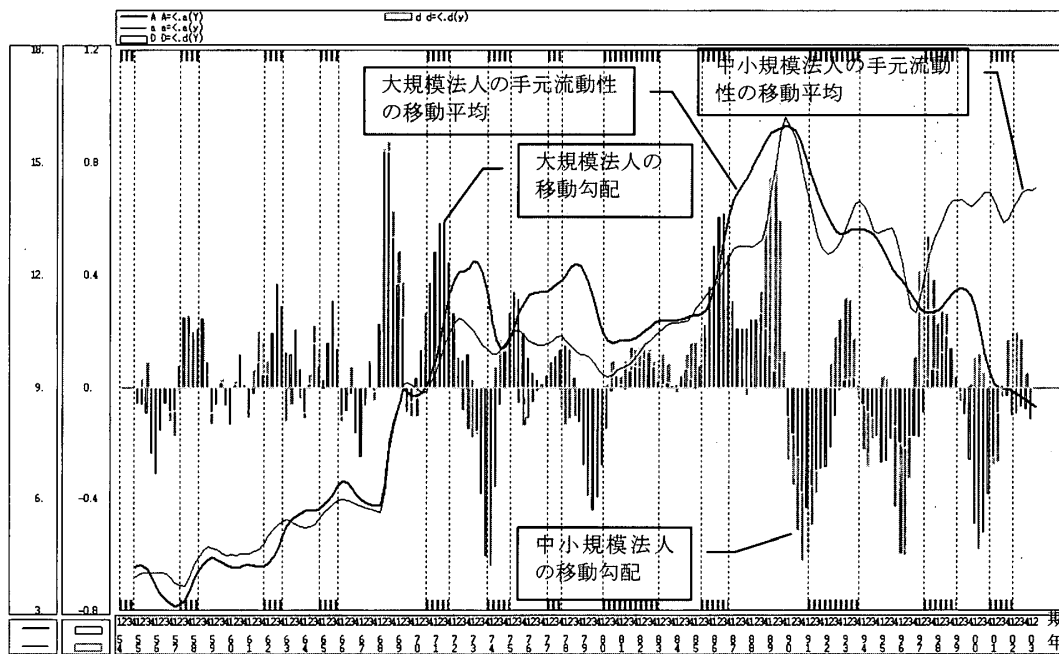
#### 4. 資本蓄積率と労働分配率の全規模と中小規模の散布図比較

縦軸に資本蓄積率、横軸に労働分配率をとって散布図を描き、手前に全産業の全規模法人の散布図、奥に中小規模法人の散布図を配置した3次元図である。散布点の軌跡は左上から右下へとシフトしている。その節目となった時点が1974年(図の印字uで第1次石油ショック)と1993年(図の印字Nでバブル崩壊)である。



#### 5. 手元流動性の大規模法人と中小規模法人の比較

大規模企業と中小規模企業の手元流動性について、移動平均(折れ線グラフ、目盛りは図の左欄)と移動勾配(棒グラフ、目盛りは図の左から2番目の欄)をプロットしたものである。図中の上下に陰影のついた部分は、内閣府の景気基準日付の後退期を示している。2000年以降の大規模と中小規模の手元流動性の差異に注目されたい。



注1 この財務省のオンラインシステムは、FABNET(ファブネット: Network System of " Financial Statements Statistics of Corporations " and " Business Outlook Survey ")と呼ばれ、「財務省景気予測調査」についてもオンライン調査が導入されている。

注2 財務省の「法人企業統計季報」の検索ページのURLは、[http://www.fabnet2.mof.go.jp/fabnet/IE/Kihou\\_oq.htm](http://www.fabnet2.mof.go.jp/fabnet/IE/Kihou_oq.htm) である。

注3 XCAMPUSは、「探索的経済経営データ処理大学用システム: eXploratory Computer Aided Macro-economic and micro-economic data Processing University System」の略称である。最新情報や文献については <http://xcsv.kobeuc.ac.jp/xcampus/> を参照されたい。XCAMPUSは兵庫県立大、阪南大、広島大、法政大、松山大、大阪府立大、大阪経済大、大阪市立大、東京経済大などで教育・研究用に稼働している。